

◎「ウクライナ支援」 News Letter(30)

2024年12月26日

ミッション・宣教の声

主にある皆様へ

いつも、祈り覚えてくださり感謝します。世は「クリスマス・ムード」一色ですが、ウクライナはそれどころではありません。生きるか死ぬかの戦いの渦中にいる兄弟姉妹を覚えると、胸が痛みます。それでも御子イエス・キリストの誕生を静かに記念することができますよう、祈っています。

昨日、船越宣教師から宣教レターと写真が入りましたので、シェアさせていただきます。どうぞ厳しいウクライナ情勢下で、忠実に主様に仕えている船越宣教師夫妻を覚えてください。そしてオデーサ・バプテスト教会はじめ、多くの主様にある兄弟姉妹を祈り覚えて下さい。来年こそ、ウクライナ戦争が停止しますように。と願いを込めてこもNLを送ります。

黒田 禎一郎

愛する
皆様へ

いつもお祈りとご支援、本当にありがとうございます。心から感謝しています。2024年も、いよいよ終わりを迎えようとしています。

今年1年間、ウクライナは筆舌に尽くし難い多くの傷を受けてきました。病院訪問で出会う兵士たち、手や足を失っている兵士たちの数が、去年とは比較にならないほど増えています。私たちの教会もさまざまな試練の中を通りました。

この1年を終えるにあたって、それらの「傷」に注目することもできます。しかし、主が注いでくださった恵みに注目したいと思います。ウクライナが傷だらけになりながらも立ち続けていること。私たちの教会が守られ、愛するみなさまのお祈りに支えられてきたこと。与えられたさまざまな出会い。それら一つ一つを考えると、本当に感謝があふれてきます。

12月19-21日、私(真人)は他教会のチャプレンたちとともに、スームイとドンバスに行きました。スームイはウクライナとロシアの国境近くの街で、現在クルスク方面で

の戦闘に参加している兵士たちの多くがここに駐屯しています。その部隊の1つに物資と福音のメッセージを届ける働きができました。非常に危険な任務を受けている彼らに希望を伝えたい、切実な思いで彼らとの時間を過ごしました。

その後、ドンバス方面に移動し、ポクロフスク郊外で防衛戦に当たっている兵士たちを訪問しました。そのうちの1つの部隊には、私たちの教会に集っている家族(母と娘)のご主人がいます。その家族は、ヘルソン州のドニプロ川東岸部(現在はロシアの占領下)に住んでいた農業を営む家族でしたが、そこはロシア軍に占領され、家も農地も車もすべて奪われてしまい、帰る家がなくなってしまった状態です。今は家族がオデッサで避難生活をし、ご主人が前線で戦っています。このような家族がたくさんあります。

病院訪問では、上述したように、手や足を失った兵士たちの数が増えています。今、私たちが話す機会の多い元兵士(50代)は、両手と両足を失い、脳にも記憶障害を負っています(ただ、それに気づかないくらい快活に振る舞っておられます)。奥さんも住み込みで世話をしています。お二人はまだ福音を受け入れていませんが、聖書に強い関心を持っています。このご夫婦(アレクセイとエレナ)のためにお祈りください。

もうひと組の夫婦(コーリヤとアリーナ)のためにもお祈りください。コーリヤ(34歳)は戦場で重傷を負い、昏睡状態でキエフの病院に搬送されました。アリーナはオデッサからすぐにキエフの病院に行きましたが、医者からは「ご主人は数日以内に死にます」と宣告されました。その知らせを受けたアリーナは病院を出て、その前にある公園のベンチに座り、号泣したそうです。しかし、その涙の中で天を見上げて神に奇跡を願いました。そして「諦めてしまうよりも、信じることを選び取るために、湧き上がる疑念と戦った」と言います。その後、コーリヤは昏睡状態から意識を取り戻すことができ、今は肢体に重い障害を負いつつも、リハビリに励んでいます。(病室でも、弱気なことを言うしまうコーリヤをアリーナが励ます姿がいつも印象的です。)アリーナは、コーリヤの命を守ってくださった神が、彼に回復も与えてくださると信じて、病室に住み込みで夫を励まし、世話をしています。彼女は神の存在をはっきりと信じていますが、まだ福音を受け入れているとは言えない状態です。どうか、コーリヤとアリーナがイエス・キリストにある救いをはっきりと信じ受け入れることができるようにお祈りください。

HOPE ヘルソンも今年、用いられました。毎月、食糧支援物資をヘルソン市のオレグ牧師のもとへ運びました。12月6日は、ポサド・ポクロフスケとミルナの2つの村も訪問、子どもたちへのクリスマスのプレゼントと聖書からのメッセージを届けました。この2つの村はヘルソン郊外にあります。2022年のヘルソン地方占領の際に徹底的

に破壊された村です。ほとんどの住人たちは村を離れて避難しましたが、避難先での生活を続けることが困難となった人々は、壊れた家に戻り、今、厳しい環境の中で生活を再開しています。その二つの村で宣教しているのがアンドレイ・アーニャ夫妻です。私たちは彼らを支援しています。12月24日にもこの教会に食料支援物資を届けることができました。この教会の祝福をお祈りください。

12月24日にはヘルソン市のオレグ牧師たちにも食料支援物資をお届けしました。オレグ牧師は12月15日の私たちオデッサ教会での礼拝で証とメッセージもしてくださいました。彼ら家族があのような危険な場所で守られ用いられていることは本当に驚異的です。(12月24日、私たちがヘルソン市にいた約30分間の間だけでも、10回以上の凄まじい砲撃音が轟きました。)引き続き、オレグ牧師家族の守りと働きの祝福をお祈りください。

HOPE ニコラエフも用いられています。12月26日(マリフカ村)、27日(イングルカ村)、28日(ノヴァウクラインカ村)で「こどもクリスマス集会」を行います。1月5日(日)には「クリスマス礼拝」(説教は勇貴)を行います。(ここ数年、ウクライナではクリスマスが12月25日となっているため、12月22日の礼拝でもクリスマス・メッセージを語りましたが、伝統的には1月7日をクリスマスとしてきたので、1月5日にもクリスマス礼拝を行います。)

1月9日(木)、オデッサに新設された子ども病院でクリスマス・イベントをさせてもらうことになっています。この病院には激戦地で、PTSDを負って現在治療を受けている子どもたちもいます。この活動が用いられるようにお祈りください。

水曜集会では、12月はダニエル2章を学んできました。歴史を支配しておられる神の主権と真実さを、感動をもって学びました。1月はダニエル3章を学びます。バビロンという異教世界に生きた三人の信者たちが、ネブカドネザル王の火の炉から救い出されたのではなく、火の炉の中で守られ、主の栄光を体験した出来事から学びます。祝福をお祈りください。

敬愛する兄弟姉妹の本当に尊いお祈りに、心から感謝しています。本当にありがとうございます。皆様の尊いお働きの上に、主の守りと導きと祝福が豊かにありますように、オデッサで心から祈っています。

船越真人・美貴



祈りの課題

1. ウクライナ・ロシア戦争の停止・終息のため
2. 北朝鮮兵士が戦火に巻き込まれる中、戦争犠牲者が最小限にとどまるように
- 3 苦難の中でもキリストの福音が宣べ伝えられますように
4. 教会(集会)指導者に、神の助けと導きがありますように
5. 日本からの支援献金が豊かに用いられますように。

※ 「ミッション・宣教の声」の オンライン献金先は次です。
導かれた方はどうぞご利用ください。

<https://vomj.jp/free-donation/>